

2026 年 9 月 25 日

台湾・8月輸出受注額は過去最高を更新(Asia Weekly)

～オーストラリア・8月失業率は5年ぶりの高水準も、就業者数増加で雇用環境に底堅さ～

経済調査部 主席エコノミスト 西濱 徹

(Tel : 050-5474-7495)

(経済指標の振り返り)

発表日	指標、イベントなど	結果	コンセンサス	前回
9/22(火)	(台湾)8月失業率(季調済)	3.32%	--	3.33%
	8月輸出受注(前年比)	+71.4%	+63.6%	+61.9%
9/23(水)	(シンガポール)8月消費者物価(前年比)	+2.3%	+2.3%	+2.2%
	(インドネシア)金融政策委員会(7日物リバースレポ金利)	5.75%	5.75%	5.75%
	(台湾)8月鉱工業生産(前年比)	+23.47%	--	+23.95%
9/24(木)	(オーストラリア)8月失業率(季調済)	4.6%	4.5%	4.5%
9/25(金)	(タイ)8月輸出(前年比)	+24.3%	+24.3%	+21.6%
	8月輸入(前年比)	+25.1%	+31.4%	+36.7%

(注) コンセンサスは Bloomberg 及び THOMSON REUTERS 調査。灰色で囲んでいる指標は本レポートで解説を行っています。

[台湾]～半導体関連の旺盛な需要を追い風に、8月の輸出受注額は過去最高を更新～

22日に発表された8月の失業率(季調済)は3.32%となり、前月(3.33%)から0.01pt低下した。失業者数は前月比▲0.1万人と前月(同+0.0万人)から3ヵ月ぶりの減少に転じており、新卒・既卒を問わず減少しているほか、非自発的失業を中心に減少する動きが確認されている。就業者数は前月比+0.2万人と前月(同▲0.2万人)から3ヵ月ぶりの増加に転じており、観光関連や金融関連といったサービス業で引き続き堅調な動きがみられるほか、建設業も底堅く推移するとともに、製造業においても持ち直しの兆しがうかがえる。労働力人口も前月比+0.1万人と前月(同▲0.2万人)から2ヵ月ぶりの増加に転じており、労働参加率は59.59%と前月(59.59%)から横ばいで推移している。

また、同日に発表された8月の輸出受注額は前年同月比+71.4%となり、前月(同+61.9%)から伸びが加速した。前月比も+5.92%と前月(同+0.73%)から4ヵ月連続で拡大しており、単月ベースの輸出受注額は過去最高を更新した。主力の輸出財である半導体をはじめとする電子部品関連の受注が引き続き旺盛に推移しているほか、IT機器関連や化学製品関連の受注にも底堅さがうかがえる。国・地域別では、最大の受注先である中国本土向けで拡大の動きに一服感が出ているほか、日本向けも同様に下振れしている。一方、米国向けや欧州向けは堅調に推移しているほか、ASEAN(東南アジア諸国連合)などアジア新興国向けにも旺盛な動きがみられる。

23日に発表された8月の鉱工業生産は前年同月比+23.47%となり、前月（同+23.95%）からわずかに伸びが鈍化した。ただし、前月比は+0.85%と前月（同+3.00%）から拡大ペースこそ鈍化したものの、7ヵ月連続で増加しており、輸出受注と同様に堅調な推移をみせている。財別では、半導体の生産が引き続き旺盛に推移しているほか、医薬品や石油化学製品関連でも生産拡大の動きがみられる。一方、電気機械関連や自動車など輸送用機械関連、縫製品関連の生産には一服感が出ており、分野ごとのばらつきが鮮明になっている。

図1 TW 雇用環境の推移

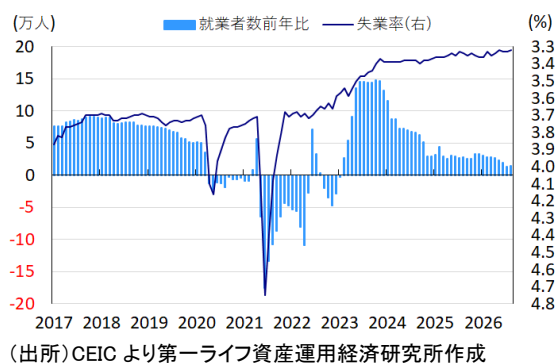


図2 TW 輸出受注の推移

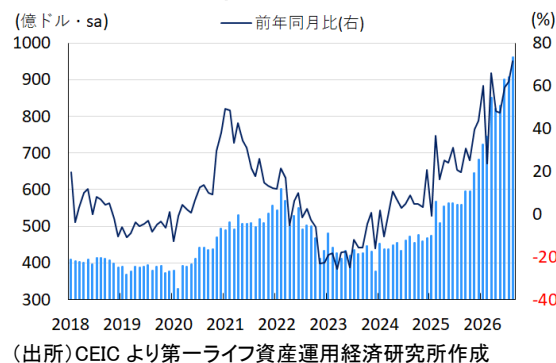
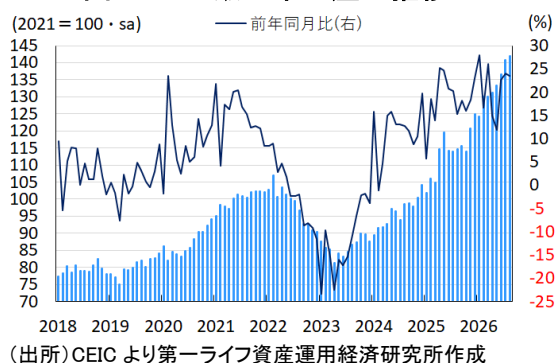


図3 TW 鉱工業生産の推移

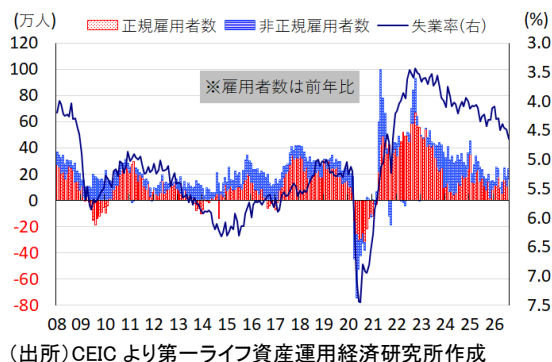


[オーストラリア]～失業率は5年ぶりの高水準も就業者数は増加、雇用環境は引き続き堅調に推移～

24日に発表された8月の失業率（季調済）は4.6%となり、前月（4.5%）から0.1pt悪化して2021年11月以来の高水準となった。失業者数は前月比+2.8万人と前月（同+0.5万人）から3ヵ月連続で増加しており、パートタイム雇用を希望する求職者数（同+1.3万人）のみならず、フルタイム雇用を希望する求職者数（同+1.6万人）も増加している。一方、就業者数は前月比+3.9万人と前月（同▲1.6万人）から2ヵ月ぶりの増加に転じた。フルタイム就業者数（同▲0.6万人）は4ヵ月ぶりの減少に転じたものの、パートタイム就業者数（同+4.6万人）の増加が全体を押し上げている。地域別では、最大都市シドニーを擁するニュー・サウス・ウェールズ州やヴィクトリア州など大都市部で雇用が増加しているほか、資源関連産業が集積する西オーストラリア州でも増加しており、商品市況の上昇などが雇用環境を下支えする動きがみられる。雇用環境の底堅さを反映して、労働力人口は前月比+6.8万人と前月（同▲1.1万人）から2ヵ月ぶりの増加に転じており、労働市場への参入意欲の高さがうかがえる。その結果、労働参加率は67.1%と前月（66.9%）から

0.2pt 上昇し、16 ヶ月ぶりの高水準となった。総労働時間も増加する一方、不完全雇用率は低下しており、労働需給には依然としてひっ迫感が残っている様子がうかがえる。中期的にも就業者数は増加基調を強めているほか、労働参加率も歴史的な高水準で推移しており、雇用環境は引き続き堅調に推移している。

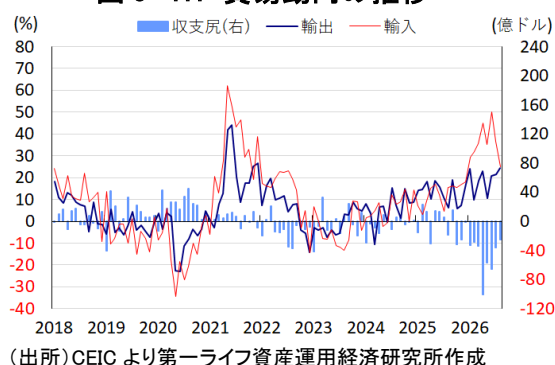
図 4 AU 雇用環境の推移



[タイ]～金輸出の堅調さが輸出を下支えする一方、幅広い品目で輸入に下押し圧力がかかる動き～

25 日に発表された 8 月の輸出額は前年同月比+24.3%となり、前月（同+21.6%）から伸びが加速した。なお、当研究所が試算した季節調整値に基づく前月比は 3 ヶ月ぶりの減少に転じており、持ち直しの動きには一服感が出ている。財別では、金の輸出が大幅に増加するとともに、原油価格の高止まりを受けて石油製品関連の輸出も堅調に推移している。一方、製造業関連の輸出が頭打ちとなるとともに、農産品の輸出が大きく減少したことが全体を下押ししている。一方の輸入額は前年同月比+25.1%となり、前月（同+36.7%）から伸びが鈍化した。前月比も 2 ヶ月連続で減少しており、中期的な基調も減少傾向に転じるなど、頭打ちの動きを強めている。原油価格の高止まりを反映して原油・石油製品関連の輸入額が押し上げられる一方、資本財や中間財のみならず、消費財の輸入額にも下押し圧力がかかるなど、全般的に輸入は弱含む動きをみせている。その結果、貿易収支は▲24.83 億ドルとなり、前月（▲36.11 億ドル）から赤字幅が縮小している。

図 5 TH 貿易動向の推移



[シンガポール]～生活必需品のみならず、財・サービス全般でインフレ圧力が強まっている～

23 日に発表された 8 月の消費者物価は前年同月比+2.3%となり、前月（同+2.2%）から加速して 2024 年 7 月以来の高い伸びとなった。前月比も+0.62%と前月（同▲0.16%）から 2 ヶ月ぶり

の上昇に転じており、原油価格の再上昇を受けてエネルギー価格に押し上げ圧力がかかるとともに、生鮮品をはじめとする食料品価格も上昇するなど、生活必需品を中心にインフレ圧力がくすぶっていることが影響している。なお、食料品とエネルギーを除いたコアインフレ率も前年同月比+2.2%となり、前月（同+2.0%）から加速して2024年9月以来の高い伸びとなった。前月比は+0.27%と前月（同+0.28%）から上昇ペースがわずかに鈍化したものの、上昇基調は続いている。エネルギー価格の上昇に伴う輸送コストの押し上げを反映して幅広い財価格が上昇しているほか、サービス物価も上昇基調を強めており、財・サービス全般でインフレ圧力が強まっている。

図6 SG インフレ率の推移



以 上